

第9回グローバル人事塾

世界が変わる！新スタイルの関係構築法 ～お互いを認め合える関係性の作り方～

日時： 2013年12月18日 19:00～21:00

場所： KENスクール新宿本校

主催： グローバル人事塾

企画： ゼスト株式会社

協力： 株式会社シンクスバンク(提携セミナールーム)

講師： 石山喜章氏(株式会社CCO)



内容

- | | |
|-----------------------------|---|
| 1. 講師紹介 | 2 |
| 2. SSMを通じて学ぶ、コミュニケーションの基本構造 | 2 |
| 信頼関係を築く四つの力 | 2 |
| コミュニケーションの深さによって決まる、出会いの質 | 4 |
| 出会いの質を決めるのは、無意識に持っている判断基準 | 4 |

1. 講師紹介

石山喜章氏

株式会社 COO 代表取締役
株式会社 FINC 取締役 CCO
株式会社 JIN-G 執行役員 CCO
パッション・リーダーズ

【資格】
マインドームコーチ（[社]マインドームコーチ協会）
Attender Licence（World Attender Association）



【略歴】

1977年、鳥取県生まれ。埼玉大学理学部物理学科及びデジタルハリウッド本科プロデュース専攻を同時に卒業後、IT系の戦略コンサルティング会社にて営業ノルマの3倍を達成しMVPを受賞。

株式会社エッジ（後のライブドア）にスカウトされ、数々のメディア戦略・マーケティング戦略を統括し同社の成長を支える。その過程で資本主義システムの限界を感じ、新しい社会の枠組みの必要性を痛感。

7年間、NR JAPANの共同経営者として人材育成・認識産業の開拓に取り組んだ後、当社を起業し独立。現在は、心を経営できるCCO（Chief Communication Officer）を増やし、多くの企業に心の健康を広めるべく活動中。

また、北海道大学、明治大学、埼玉大学、関西大学、BBT大学などにて、講師、審査員などを務め、本質深くに迫るアプローチには定評がある。

アメーバブログ～ <http://ameblo.jp/japan-mission/>

2. SSMを通じて学ぶ、コミュニケーションの基本構造

信頼関係を築く四つの力

人は、出会い、コミュニケーションの過程を通じて、関係性の構築を行っている。そして、その結果として生じた問題を解決する。

出会い→コミュニケーション→関係性→問題→解決

この一連のプロセスの中で、問題を解決することが、つつい日々の仕事になってしまいがちである。しかし、問題解決にエネルギーを費やす人生と、問題を生み出さない関係性を作るコミュニケーションの在り方に投資するのと、どちらがいいだろうか？

いい結果を生むための関係性の在り方として、大切なコミュニケーションの力とは次の四つである。これがあれば、理想的な上司になれる。

- ①（語られぬことを聞く）質問力
- ②（ゼロになって聴く）傾聴力
- ③（あり方を認める）称賛力
- ④（相手の変化を促す）影響力

コミュニケーションは、インプットとアウトプットの循環のなかで行われる。普段のつきあいだと、お互いに話す範囲が限られてしまうが、このSSM（Super Speed Meeting）というゲーム（すごろく式に駒を進め、引いたカードの指示に従ってプレゼンし、それを他のプレイヤーが褒める）を通じて、普段しないコミュニケーションを体験した。



コミュニケーションの深さによって決まる、出会いの質

コミュニケーションの際、相手の考え方や感情、背景にあるイメージ、セルフイメージなど、無意識から来る部分は、なかなか見えづらいものである。相手を褒める際には、そこに対する理解に努めてみる。話している内容について褒める、その言葉の背景を想像しながら褒める。更に、褒める際にはその理由を感情をこめてアウトプットしたか、アイデンティティから繋がるアウトプットやインプットをしていたか、などを振り返ってみよう。今日はどんな質の「出会い」をしていたらどうか。

自身のことを振り返ると、仕事の場で感情を出すのはダメだと考えていた時は、理屈で仕事をしていた。その結果、共有・共感がなく、状況・環境・条件によって変わってしまう人付き合いの20代だった。コミュニケーションの深さが出会いの価値を決めているとしたら、今日はどのような出会いがあったらどうか。今まで話したことがないことを初めて話して、たった一時間で親友ができたかもしれない。意外な一面に気付いた出会いがあったりするの、コミュニケーションの深さによってきまる。

出会いの質を決めるのは、無意識に持っている判断基準

出会いの質を決めているのは無意識である。(自分にとって一番嬉しい褒め言葉をくれたチームメイトに)一人だけを選んでコインをあげるときの、嬉しいと思った時の判断基準はなんだっただろうか。

判断基準を「心の家：マインドーム」(Mind + home = Mindome)と呼んでいる。心の家を中心に、自分が何をインプットアウトプットするのか、そこからどんな関係性をつくるのかまでを含む、自分の判断基準のこと。行動の基準(体)と、判断の基準(心)の範囲が重なる人同士、範囲に柔軟性がある人が、相手の世界を受け取りやすい。

ゲームには、資本主義の要素が取り入れられている。1枚のコインを「愛情」に例えると、それを渡すということは、感謝の表現となる。チームの中で誰が一番愛情深い人だったか、貰ったコインの数で可視化される。

コミュニケーションをしながら、相手との関係性の構築も同時におこなっている。どういうアウトプット・インプットをしたことで、初対面からいきなり深い関係を作ることができただろうか。その関係性構築の基準になっているのが、判断基準である。

では、あなたの判断基準は、日常生活にどう影響しているだろうか。今の仕事やパートナーや関係性を無意識に選択している基準は、これからの日常生活にどう影響しているだろうか。人と出会って、関係性が生まれても、問題解決が仕事になってしまっていないだろうか。

本日の「褒めるゲーム（褒めゲー）」では、関係性をつくるコミュニケーションのうちの、褒める、聴く、をとりあげた。

どこからアウトプットして、どこまでインプットしているのかという、インプットとアウトプットの深さ。聴くとき・質問するとき、営業のとき・家族といるとき、それぞれの場面の中で、中心となる価値観を判断している「ものさし」が、自分や仕事にどう影響しているのかを見直してみよう。

出会いは人生を変えるが、変化を選択するのは常に自分自身である。

